

Title	印刷業界における業績決定要因の分析
Sub Title	
Author	鷺谷武(Washitani, Takeshi) 関口操
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0115

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 鷺谷 武

主査 関口 操 教授

副査 片岡 一郎 教授

所属ゼミナール 古川 公成 研

古川 公成 助教授

印刷業界における業績決定要因の分析

昭和36年から昭和53年までの18年間に、日本国内の印刷物出荷額は、GNPの増加に伴って、約16倍に増加している。

しかしこの間、業界内の大手7社の業績には、大きなばらつきがみられる。

大手7社にみられるこの業績のばらつきの主因は何なのか。そして、業績決定要因はこの18年間を通じて不変なのか。本研究の目的は、このような基本的な疑問の解明にある。

本研究では、次の基本的な作業仮説について、分析を試みた。「経営環境が変化が変化すれば、業界における業績決定要因も変化する」

より具体的には、昭和36年から昭和53年までの18年間の、業界の経営環境の違いから三つの期間に区分し、期間別に業績決定要因についてのより詳細な作業仮説を提示した。そして、業界大手7社の現実の業績について、この作業仮説の検証を行った。

分析の結果は、作業仮説を支持している。